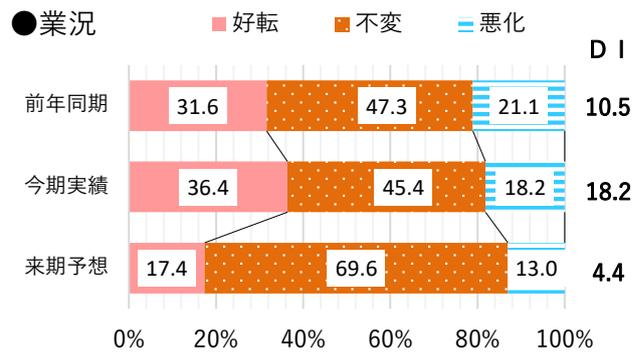


# 小 売 業

## 業況、売上、採算

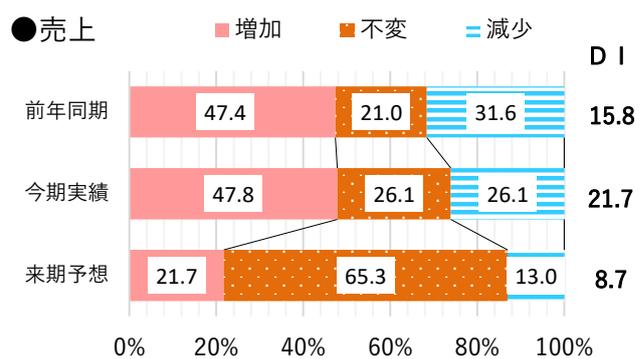
今期(2024.4~6)の業況判断DIは18.2で、前年同期(2023.4~6)と比べ7.7ポイント上昇しました。

来期(2024.7~9)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



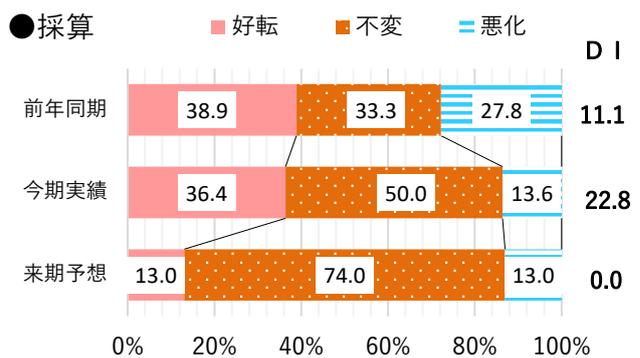
今期の売上高DIは21.7で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

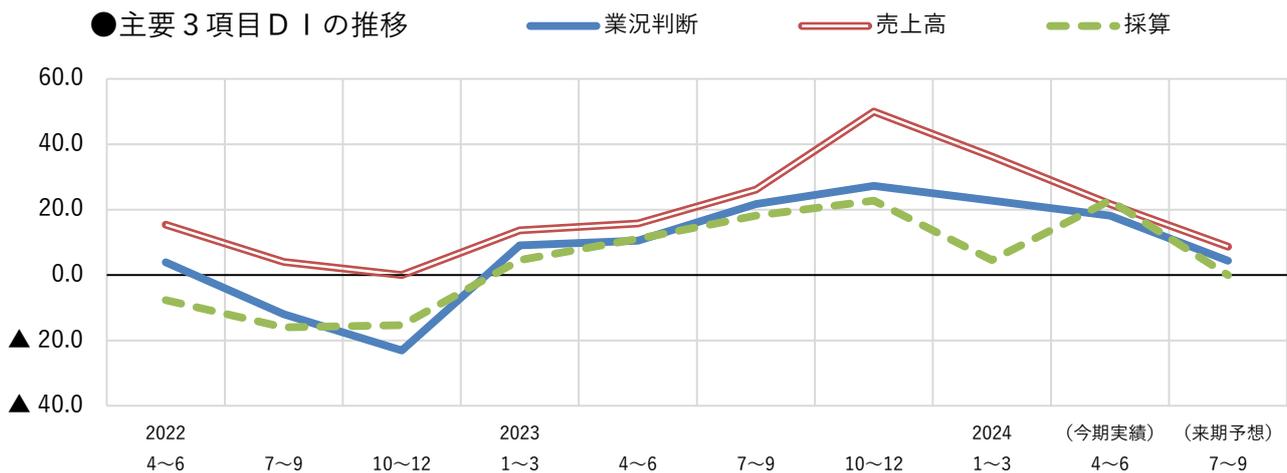


今期の採算DIは22.8で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



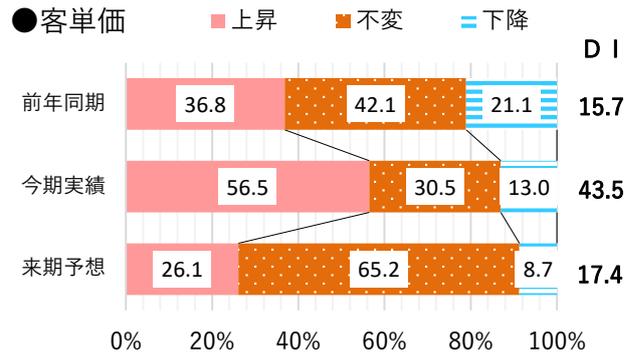
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

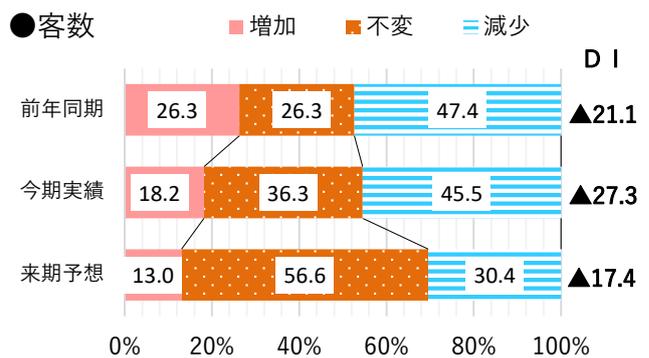
今期の客単価DIは43.5で、前年同期と比べ27.8ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲27.3で、前年同期と比べ6.2ポイント低下しました。

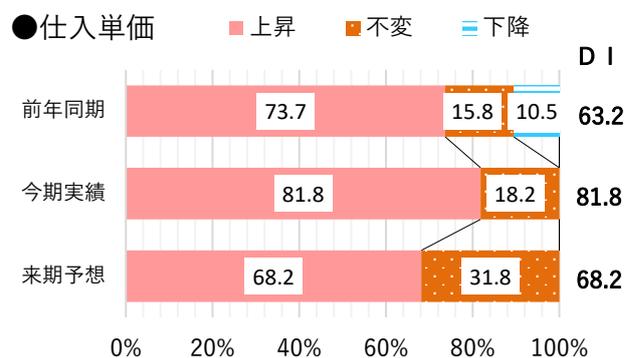
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

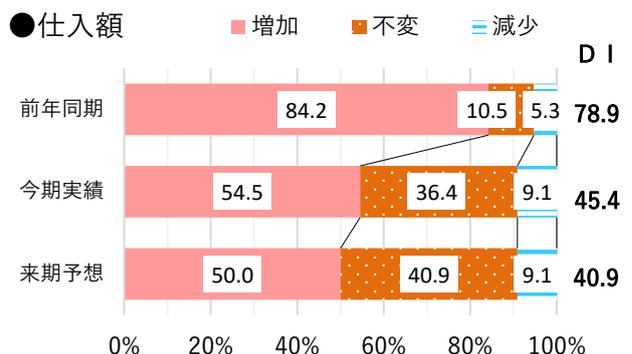
今期の仕入単価DIは81.8で、前年同期と比べ18.6ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



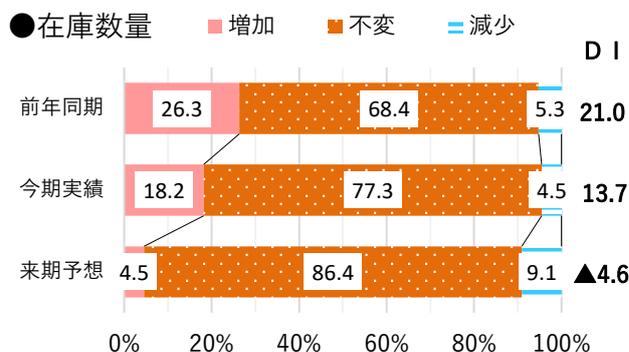
今期の仕入額DIは45.4で、前年同期と比べ33.5ポイントと大幅に低下しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは13.7で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

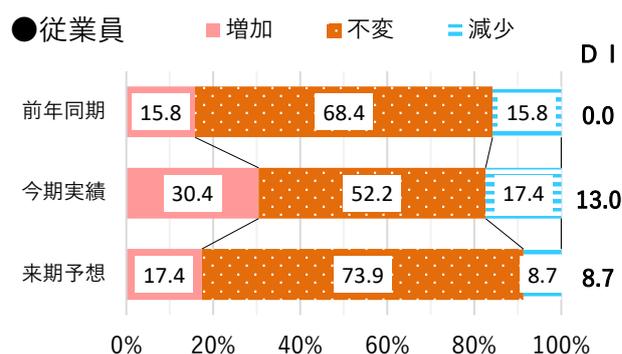
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



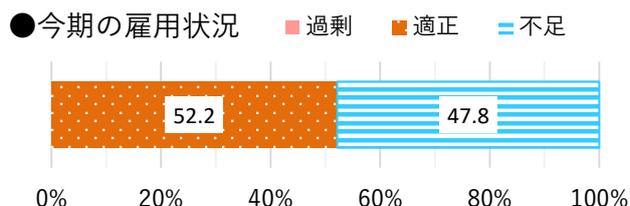
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は52.2%、不足していると回答した企業の割合は47.8%でした。



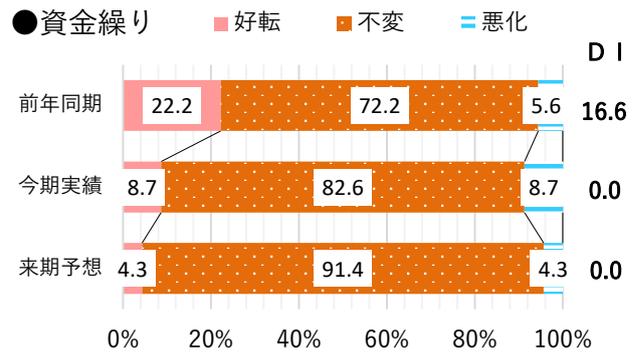
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、26.0%を占めており、47.8%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

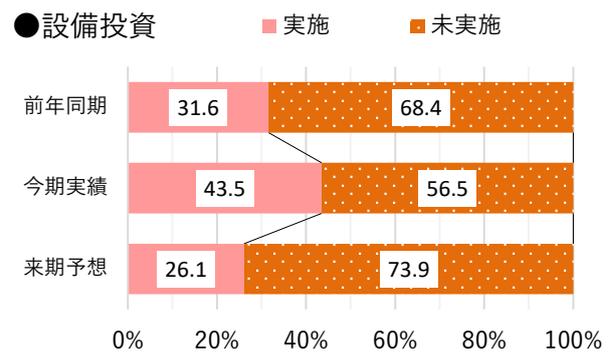
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ16.6ポイント低下しました。

来期は、資金繰りに変化はないと予想しています。



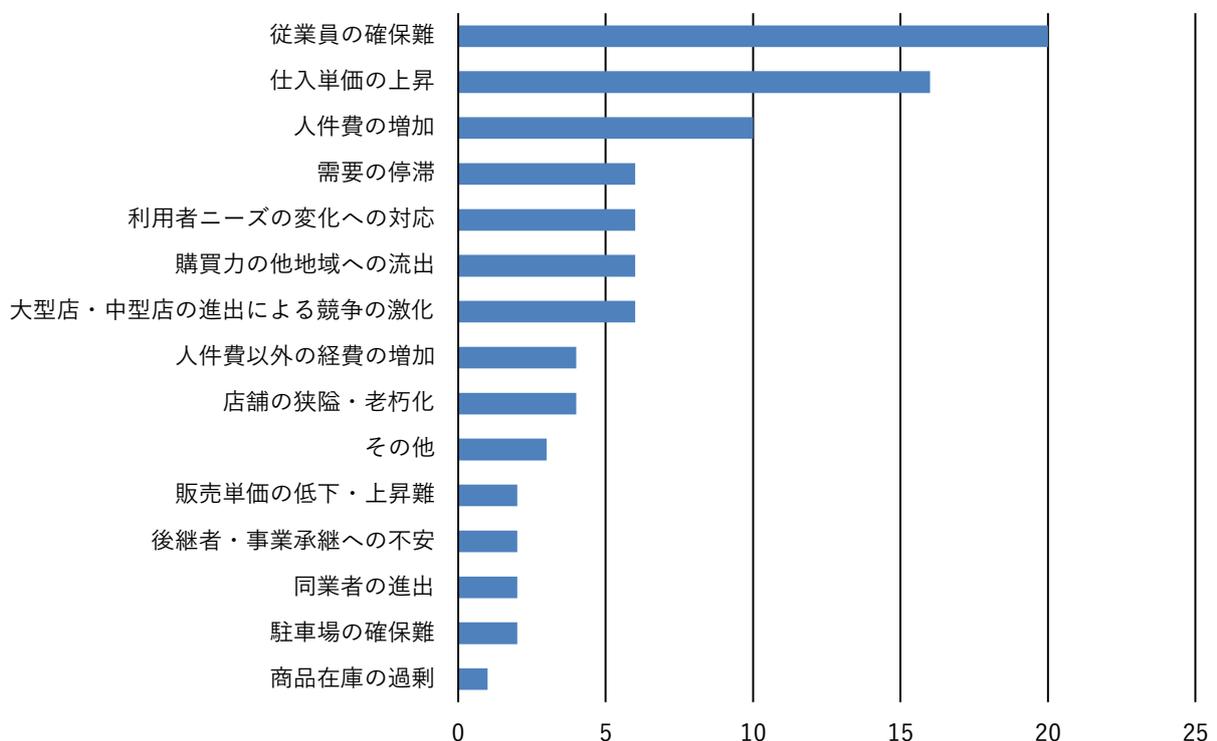
設備投資を実施した企業の割合は43.5%で、前年同期と比べ11.9%上昇しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「車両運搬具」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.1%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 昨年の猛暑の記憶もあり、季節家電や夏物衣料品が早い時期から動いた。加工食品は堅調だが、生鮮食品は相場の高騰もあり、全体的に不振だった。インバウンドの来客は昨年度比で180%と好調だったが、物価高による買い控えもあり、来店頻度は低下している。(大型店)
- 客足が外食や観光に向いているのか、節約志向なのか、客足は鈍いように感じる。(大型店)
- 仕入単価が上昇している。(大型店)
- 観光業の回復や商品単価の上昇などから売上は増加しているが、同時に粗利益率が圧縮されている商品も一部あり、今後の値上げ受け入れ要請が必要だ。また、あらゆる経費が増加傾向にあり、同額の粗利益を確保しても経常利益は減少するので、対策が必要となる。(食料品)
- 値上げを実施したが、仕入等の値上げがまたあり、どこまで効果が出るのが疑問だ。(菓子製造小売)
- 前期受注した車両の納期が前倒しされたことで、売上が増えた。(自動車)
- 円安により売上が増加した。(自動車)
- 新車供給量が増加した。(自動車)
- 市民の家計が苦しくなり、売上は一層落ち込むと思われる。(衣服・身の回り品)
- エアコンの販売が好調で、全体の実績を底上げした。客数は減少傾向だが、エアコンの販売により客単価が引き上げられた。(家電量販店)
- 客数が前年比97%程度と少なく、売上の減少に直結している。(ホームセンター)
- 店舗の改装を実施した。(ホームセンター)
- ガソリン、電気といったエネルギーコストの上昇が止まらない。(コンビニ)

## [来期の業況について]

- 今期の流れが続くと予想しているが、賃上げやボーナス、定額減税、イベントとしてパリで開催される夏季オリンピックもあるため、今期よりは節約志向が弱まると思う。(大型店)
- 商品単価の上昇や経費の増大は今後も注意が必要だ。(食料品)
- 来期は繁忙期にあたるため、売上は増加するが、原材料、包装資材等の値上げが予定されており、利益は圧縮されると思う。(菓子製造小売)
- 業界の不祥事により、車両販売が苦戦すると思われる。(自動車)
- 今期の状況と変わらないと思われる。(自動車)
- 市民の家計状況の二極化が加速し、単価が低い商品の売上が大半になると思う。(衣服・身の回り品)
- 前年度はエアコンの売上で実績が伸びたが、今年度は前倒しでエアコン需要があったため、来期は少し落ち着くと思われる。冷蔵庫やテレビといった他の商品がある程度伸びると見ており、エアコン需要が落ち込む分をカバーして、売上は前年同期と大きく変わらないと見ている。(家電量販店)
- インバウンドの状況によるが、市の人口が減少する中で好転するとは思えない。(ドラッグストア)
- 弊社が入居している施設全体での客数増加に向けた対策が必要だ。(ホームセンター)
- 引き続き店舗改装に取り組む。(ホームセンター)
- 最低賃金を1,500円まで引き上げるなら、人材の採用自体を控えるかもしれない。(コンビニ)